ＩＣＴコトづくり検討会議（第７回）議事録

１．日時

平成２５年６月２０日（木）１０：３０～１２：００

２．場所

中央合同庁舎２号館１１階　第３特別会議室

３．出席者

（１）構成員

三友座長、谷川座長代理、岩浪構成員、岡村構成員、神竹構成員、木谷構成員、柴崎構成員、林構成員、藤山構成員、三膳構成員、森川構成員、吉崎構成員

（２）オブザーバー

経済産業省

（３）総務省

柴山総務副大臣、小笠原総務事務次官、田中総務審議官、桜井情報通信国際戦略局長、阪本政策統括官、谷脇官房審議官、山田情報通信国際戦略局参事官、渡辺情報通信政策課長、中村融合戦略企画官

４．議事

（１）報告書（案）について

（２）意見交換

（３）その他

５．議事概要

【三友座長】　それでは、定刻となりましたので、ただいまからＩＣＴコトづくり検討会議（第７回）の会合を開催させていただきます。

皆さん、おはようございます。お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、梶浦構成員がご都合によりご欠席でございます。

また、柴山副大臣は、前にご予定がございまして、終わり次第、駆けつけていただけることになっております。

橘政務官は、ご欠席でいらっしゃいます。

それから、森川構成員は、おくれていらっしゃるということですので、じきにいらっしゃると思います。

それでは、早速ですが、事務局より本日の資料の確認をお願いいたします。

【中村融合戦略企画官】　本日の配付資料でございます。お手元、資料７－１から７－３まで、それから参考資料の７－１、計４点をお配りさせていただいてございます。

【三友座長】　ありがとうございます。

もし、過不足等ございましたらば、おっしゃっていただければと思います。

それでは、最初に、先週の６月１４日に政府の新たなＩＴ戦略が閣議決定されました。その戦略におきましては、コトづくりに関連する記載もございますので、内容につきまして事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【中村融合戦略企画官】　それでは、お手元の参考資料でございます。これに基づきまして、簡単にご説明をさせていただければと思います。

先週の金曜日、６月１４日でございますが、新しいＩＴ戦略ということでございまして、お手元「世界最先端ＩＴ国家創造宣言」というものが閣議決定されました。その中で、ＩＣＴコトづくり検討会議の中でご議論をいただいたようなこと、関連する記載もございますので、簡単にご紹介をさせていただければと思います。

ページをおめくりいただきまして、５ページ目からでございますが、新しいＩＴ戦略の中で具体的な取り組みの記述がございます。その中のまさしく一丁目一番地のところで、革新的な新産業・新サービスの創出というところが６ページ目の冒頭からございます。この中で、まさしく中心はＩＴ、あるいはデータの利活用というようなことでございまして、特に（１）といたしまして、オープンデータ・ビッグデータの活用の推進といったところでございます。

具体的な記述でございますが、いわゆるビッグデータを集約、整理いたしまして、例えばその地域の状況をわかりやすく示すような不動産情報提供、あるいは多種多量のデータから顧客のニーズに応じたデータを自動的に抽出するプログラム開発などの新ビジネスや官民協働の新サービスが創出され、企業活動、消費者行動、それから社会生活にもイノベ

ーションが創出される、そういった社会を実現するということでございまして、まさしくこの会議の中でご議論いただいたような内容が、政府全体の戦略の中にも盛り込まれています。

さらに具体的な内容といたしまして、①公共データの開放の推進ということでございまして、公共データにつきましてオープン化を原則とする発想の転換を行うというようなことがうたわれてございます。

このオープンデータに加えまして、その次のページ、７ページ目でございますが、②ビッグデータの利活用による新事業・新サービス創出の促進ということでございまして、ビッグデータを利活用いたしまして付加価値を生み出すような新事業、あるいは新サービスの創出を強力に推進するということでございまして、まさしくこのＩＣＴコトづくりに関連することと理解してございます。

８ページ目の第３パラグラフでは、ビッグデータの利活用を促進するため、データやネットワークの安全性、信頼性の向上、相互接続性の確保、大規模データの蓄積、処理技術の高度化など、共通的技術の早期確立を図るとともに、新ビジネス、新サービスの創出につながる新しいデータ利活用技術の研究開発及びその活用を推進するというようなことが書かれていまして、これもこの検討会議の中でご議論いただいた内容かと思ってございます。

その次の９ページ目、幅広い分野にまたがるオープンイノベーションの推進等というふうにございます。この検討会議の中のプレゼンにもございましたが、例えば３Ｄプリンターの活用等によりまして、新しいものづくりの時代にいち早く対応するなど、我が国の競争力強化に積極的に取り組むというようなことですとか、あるいはコンテスト等を使いまして、将来性のある人材、事業、アイデア等の発掘、支援を促進するというような考え方も盛り込まれている状況でございます。

さらに、オープンデータ、ビッグデータの利活用に関する環境整備といったようなことをこの会議の中でもご議論いただきましたが、この戦略の中で２５ページ目でございます。すみません、ちょっと飛びますが、２５ページ目といたしまして、①のところにオープンデータやビッグデータの利活用を推進するためのデータ利活用環境整備を行うため、ＩＴ総合戦略本部の下に新たな検討組織を速やかに設置し、データの活用と個人情報及びプライバシーの保護との両立に配慮したデータ利活用ルールの策定等をできるだけ早期に進めるというような記述もございまして、こういったデータ利活用ルールにつきましては、今

後、政府全体が連携して、検討をさらに進めていくというようなことがうたわれている状況でございまして、この会議の中での皆様のご議論がこういった方針の中にも盛り込まれているということでご報告をさせていただきます。

事務局からは以上でございます。

【三友座長】　　ありがとうございました。

今、ご説明にありましたとおり、この会議で議論を重ねてまいりましたことが、かなりこの宣言の中に含まれていると考えてよろしいかと思います。その意味で、特に中核的な内容をこの会議で議論してきたということだと思います。ありがとうございました。

さて、本会議は本年３月から議論を重ねてまいりましたけれども、本日は最終会合とさせていただきたいと考えております。本会議のアウトプットである報告書（案）につきまして、ご議論をいただきたいと思っております。前回の会合までにいただきましたご意見、あるいは会合の後に皆様からいただきましたご意見等を反映する形で、事務局にて報告書の案を取りまとめていただきました。まずは、この報告書（案）につきまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。

また、前回の会合で私が、ぜひこういうことは夢を持って、その夢がイメージになるような形でと申し上げたのですけれども、その思いが通じたのか、大変すばらしい資料をつくっていただきました。岩浪構成員と林構成員に、そのイメージ、ＩＣＴコトづくりの未来のイメージを絵に起こしていただきましたので、それにつきましても後ほどご説明いただきたいと思っております。

それでは、最初に、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

【中村融合戦略企画官】　　これまで、特にパワーポイントの資料、本日の資料でいいますと資料７－１をベースに議論していただきました。それに基づきまして、資料７－２ということで、報告書（案）をまとめさせていただきましたので、本日は資料７－２をベースにご説明をさせていただければと考えてございます。

特にこの報告書の中で一つ、今回のご議論の内容を簡潔に言いあらわすようなサブタイトルがあると有効なのではないかということで、「データの開放・共有を通じた新たな社会・経済構造への転換」というサブタイトルをお示しさせていただいております。これについても、本日、ご議論いただければと思ってございます。

さらに、内容について、お手元の資料の３ページ目から、具体的に今回の検討の背景ということでございまして、なぜＩＣＴコトづくりなのかといったようなあたりから記載を

させていただいてございます。

４ページ目から、社会・経済構造の変化が背景の一つとしてあるということでございまして、具体的には５ページ目以降、まず我が国の国際競争力の相対的な低下ということでございまして、新興国経済の急速な拡大により、国際社会で我が国の存在感が相対的に低下しつつあるというような問題意識、さらには、７ページ目でございますが、製造の分野、世界製造競争力指数といったところにおきましても、我が国の順位の低下が見通されるところだというような状況でございます。

８ページ目からでございますが、技術力による差別化の限界ということでございまして、製品のモジュール化が進展いたしまして、一定の品質のものづくりが簡単にできるようになったということでございまして、単に製品の性能がよいだけでは海外の諸国にすぐに追いつかれてしまうということで、この比較優位を長期間にわたって維持することがなかなか困難な状況になってきているというようなことを、バックデータとともにお示しさせていただいてございます。

それから、９ページ目では、社会構造の変化ということでございまして、特に我が国がほかの国に比べまして先行的に多くの社会的課題を抱えているというような状況、あるいはユーザーの価値観にもいろいろな変化が見られてきたということでございまして、この会議の中でもプレゼンしていただきましたが、パーソナル・ファブリケーションといった新しいトレンドが出てきているというようなことをご紹介させていただいております。

それから、１０ページ目以降といたしまして、なぜＩＣＴコトづくりかのもう一つの要素、ＩＣＴのトレンドということでございまして、１１ページ以降、インターネットの社会基盤化が進んできている、あるいは、ＩＣＴが社会・経済の中心としての役割をきちんと果たしつつあるというようなことをご紹介させていただいてございます。

１３ページ目以降でございますが、情報機器の高度化ということでございまして、特にセンサーですとかＭ２Ｍといった分野におきまして、機器の小型化、低価格化が着実に進展しつつあるというような状況をご紹介してございます。

１４ページ目以降でございます。ビッグデータの利活用の進展ということでございまして、ビッグデータの活用の動き、さらには、こうしたデータを社会全体で共有すること、こういったことに注目が集まっているというような状況を記述させていただいてございます。

１６ページ目以降でございますが、コトづくりに関する関心の高まりということでござ

いまして、産業界、あるいは他省庁等におきましても、経済同友会ですとか、産業競争力懇談会といったところで、コトづくりの今後の展望等をご議論いただいているというような状況でございます。

また、政府全体におきましても、先ほどご紹介をさせていただきました新たなＩＴ戦略の中で、こういったコトづくり関連の記述が盛り込まれているというところでございます。

１７ページ目でございますが、この会議にご参加をいただきました経済産業省様におきましても、ＩＴ融合フォーラムといった取り組みがございまして、新事業の創出、あるいは制度の洗い出しといったことを目指した取り組みが進められているというような状況でございます。

それから、２０ページ目以降でございます。ＩＣＴコトづくりに関する基本的な考え方ということで、これまでのご議論をまとめさせていただいてございます。特に、このＩＣＴコトづくりの定義といいますか、ＩＣＴコトづくりとは何なのかというようなことでいろいろと議論していただきましたが、２１ページ目に書いてありますとおり、利用者視点に立ってＩＣＴを利活用することによりまして、高い付加価値を創出する新しいビジネス、仕組みを構築するという考え方が得られてございます。

また、このＩＣＴコトづくりの対象範囲といたしまして、必ずしも製造業だけにとどまるようなものではない、あるいは、プロセスにおきましても、製造、組み立てといった工程以外、特に製品の企画、開発、あるいはメンテナンス、アフターサービスといった付加価値の高い工程において、こういったＩＣＴコトづくりを適用すべきというようなお話がございます。

さらに、皆様から頂戴いたしました意見といたしまして、単体のビジネスから価値を維持できるような複合的なビジネスに発展させるという視点、あるいは新しいビジネスモデルを、スピード感を持って実践、展開するといったようなことを、ビジネス展開ということで記述させていただいてございます。

こういったＩＣＴコトづくりの今後の展開ということを２３ページ目に書いてございます。ＩＣＴによって、生活者、企業、行政、社会がつながって、データが新しい価値を生み出す、そういった持続的成長が可能な社会を実現するといったことを目指すべきということでございまして、その中でも特に社会課題の解決、あるいは企業競争力の強化、それから新しいサービスの創出といったような目標の達成に向けて、政策を推進していくべきだというようなご意見を頂戴していたところでございます。

それから、２５ページ目からでございますが、こういったＩＣＴコトづくりを推進していく方向性、あるいは期待されるイノベーションということでまとめさせていただいてございます。特に、ＩＣＴコトづくりの推進の方向性ということでご議論いただきました、データをきちんと活用して、社会インフラ化させるというようなことが一つの方向性と、モノのＩＣＴ化、つまりネットワークにつながる機器を拡大させるという、大きな２つの方向性が挙げられるというご意見を頂戴していたかと思います。

こういった方向性に基づきまして、具体的には３つの分野でイノベーションが期待できるということでございまして、社会課題の解決という目標に向けまして、ソーシャルイノベーションの創出といったようなことが必要であるということ、２８ページ目でございますが、企業の競争力強化という観点でビジネスのイノベーション、さらには新たなサービスの創出という目標に向けまして、ユーザーのイノベーションといったような分野でのイノベーションが期待されるという状況でございます。

それから、３０ページ目以降でございます。具体的にＩＣＴコトづくりの推進に向けまして、どういった取り組みを進めていく必要があるかというようなことをまとめさせていただいてございます。大きく５つの方向性、５つの施策ということで、３１ページ目以降まとめさせていただいてございます。

１つ目は、新サービスの創出に向けたデータのオープン化ということでございます。これまでのような閉鎖的なデータの利活用だけでは、なかなかイノベーションの創出につながらないため、官民を問わず、できる限り、基本的にはデータをオープンにしていくということでございまして、それを相互に利用していく、共有していく、そのための環境を整えることが重要であるということを記載させていただいております。

民間が保有するデータにつきましても、前回もご意見を頂戴しましたが、データをオープンにすることで、どういった対価、メリットを享受できるか、そういった仕組みをきちんと構築する必要がある。さらには、民間データのオープン化による成功事例の共有といった観点が重要ではないかというようなところでございます。

３２ページ目でございます。２つ目の大きな推進の具体的な方策といたしまして、地理空間情報等の戦略的なデータベースの構築ということでございまして、これも前回、頂戴いたしましたご意見、海洋情報ですとか、地理空間情報といった我が国の競争力の強化につながるようなデータ、こういったものにつきまして、世界中の専門家の注目を集めるような国家の実現に向けまして、戦略的なデータベースを構築するというようなことが一つ

の方策であるというところでございます。さらには、国際標準データ形式でのデータの公開、あるいは二次利用のためのルールの策定といったような環境整備に取り組むことが期待されるという内容でございます。

それから、３３ページ目でございます。特にこういったＩＣＴコトづくりを推進するに当たりまして、やはり新規性、創造性のあるアイデアをできるだけ利活用するといった取り組みが必要であろうということでございまして、新しいプレーヤーの方々がその力を最大限に生かす、特に、失敗を恐れずにチャレンジできるような環境の中で、あるいは市場の評価が定まっていないような商品ですとか、サービスであっても、先行的に市場に投入できるような環境をきちんと整備することが重要であるとまとめてございます。

さらに、このアイデアの活用に向けまして、産官学が連携して、ともにつくり上げていくための場の構築ですとか、インキュベーション機能を充実させるために、例えばコンテストといったことも手段として活用するというようなことを盛り込んでございます。

それから、３４ページでございます。４つ目の方策といたしまして、こういったＩＣＴコトづくりの社会実装に向けた仕組みを確立させるということでございまして、例えば、こういった新しいサービスに対応したネットワーク上での新しい決済システムの開発ですとか確立、あるいは３Ｄプリンター等でございますが、ものづくりのネットワーク機能の強化、さらには地域におけます高度な生産技術とＩＣＴの連携といったような取り組みを、地域において集中的に実施することが期待できるというものでございます。

また、これもご意見を頂戴いたしましたが、こういったプロジェクトが単なる実証実験で終わらないように、今後のビジネスとしての展開をきちんと考える必要があるため、あわせまして、将来的には海外への展開の可能性、社会的な影響力の大きさといったようなことを踏まえて、できるだけ民間のアイデアを生かすことをベースにしつつ、取り組んでいくことが望ましいというふうに書かせていただいてございます。

最後に、５本目といたしまして、共通基盤技術の整備ということを書いてございます。特に、複数の機関でデータを共有、利活用するための基盤といったものは、やはり必要であるというところでございまして、そのためにもデータやウェブの安全性、信頼性の向上、さらには相互接続性の確保といったような共通的な技術の確立が必要でございます。

さらに、５．６．といたしまして、関係省庁と連携した一体的な取組の推進ということでございまして、特に新しい戦略も策定されましたが、ＩＴ総合戦略本部といった司令塔機能も活用しながら、関係省庁の皆様ときちんと連携をしながら、こういった取り組みを一

体的に推進することが必要であるというふうにまとめてございまして、３５ページ目の図の中でも、五本の矢というふうにさせていただいてございますが、これを一体的に、そして関係省庁と連携の上で進めていくというところを強調させていただいてございます。

それから、報告書の最後には具体的な事例ということで、既にサービスが提供されておるような、コトづくり関連の事例をまとめさせていただいてございます。

簡単ではございますが、事務局から以上でございます。ご議論をお願いできればと思います。

【三友座長】　　ありがとうございました。

引き続いて、岩浪構成員から資料についてご説明をいただければと思います。

【岩浪構成員】　　それでは、資料７－３になりますが、前回、座長から、利用シーンが見えるビジュアルイメージを、というようなお話がありましたので、私はこの肩書にありますように、デジタルメディア協会というコンテンツ系の団体の看板を背負って出てきているということもありまして、お役目かなと思って、デジタルメディア協会の設立当初からの会員である林構成員と事務局の方と一緒に、このビジュアルイメージをつくりました。

先ほど、報告書の概要のご説明にもありましたように、このＩＣＴコトづくり検討会議は非常に重要なことを非常に端的にまとめていただいていまして、データのオープン化とか、モノのＩＣＴ化の推進みたいなことは非常に重要なのですけれども、一般のユーザー、国民からすると、やはりちょっと難しいところがあると思います。データをオープン化して、何がいいの？みたいなことが多少あろうかと思うので、皆様の意見を踏まえてはいるのですけれども、それをそのまま１対１で描いてしまうと、ちょっと説明的な絵になってしまうので、ここではそれを１段、２段、少し想像を膨らませて、データのオープン化とか、モノのＩＣＴ化が進むと、ユーザーの個々の生活のシーンや働き方が一体どう変わるのということで、ユーザーの行動変化を中心に絵を描いています。したがって、自分の意見が１対１で入ってないのではないかといったご意見もあろうかと思いますけれども、そこは少し、１段、２段、想像を飛躍させて描いているということでお願いいたします。

報告書にもありますが、今後の政策としてはユーザーを巻き込んで、ユーザーの支持も得ながら推進していくべきだろうという観点でいくと、ユーザーにも想像しやすいということを念頭に置いてやっております。

９枚ありまして、１枚目がＩＣＴ店づくりといって、まさに一番ユーザーになじみがあるような、普通の町で暮らしているお店もあって、そこら辺がどう変わるのかということ

です。

２ページ目としては、学び場づくりという、教育に関して本政策がどう寄与するかというお話です。

３.は、だんだん現実に近づいてきているかもしれませんけれども、この後、出てくるであろうセンサー系のデバイスなどで、健康・体づくりというのは多くのユーザーの関心事ですから、それがどうなるのかということです。

あと、普通の生活をしている暮らしづくりがどうなるのかということです。

５ページ目は、ＩＣＴ工場づくりと言っていますけれども、３Ｄプリンター等も含めて、どちらかというと産業がどう変わるかというようなお話です。

６ページ目は、生活の中心である家がやはりいろいろと変わっていくだろうということです。これはまだ、ちょっとラフであります。

７ページ目は、交通とか道づくりというのは、データ、あるいは車のＩＣＴネットワーク化みたいなことでどうなるのだろうかということです。

次のページ、８.は仕事づくりです。どんな仕事があるのかというお話も含めて、データサイエンティストなどを含めて仕事がどう広がるのかといったことです。

９ページ目、最後は少し漠としましたけれども、ＩＣＴ未来づくり、データマーケットみたいなことができて、いろいろなことがあるかもしれないと、こんな９枚です。

実は、ほんとうはもう１枚あって、ＩＣＴ安心安全づくりというのを考えたのですけれども、イメージが、防犯をテーマにしたためか結構ブラックな未来になってしまって、それは削除させていただきました。

こんなイメージで起こしております。まだ色がついておりませんけれども、何とか最後は着色したいと思っております。

どんなふうに描いているのか、林構成員のほうから少し補足いただけますか。

【林構成員】　本検討会議のご議論を踏まえつつ、一般ユーザーがこういう先端的なことをどう受けとめるかという考察で色々議論をいたしました。ビッグデータとか、オープンデータが利活用されるという話は送り手側からの視点なので、ユーザーから見たらどうなるのかという点がポイントです。例えば４.のＩＣＴ暮らしづくりで、空席情報をユーザー同士が共有するケースのように、誰かがこのサービス仕切っているというよりは、自分が会員として参加していて、隣の席が空いているとエントリーすると、ほかの方がその情報を使うといった、相互利用の社会インフラ的なイメージです。こう言うユーザーの視点・

感覚をできるだけ絵の中に盛り込もうとしています。ただ、絵というのはどうしても全てを描き切れないものですから、横にあるト書きですとか、せりふを使って、かなり無理をして説明しております。そのようなことをかなりやっておりますので、絵だけではなくて、ト書きの中、せりふの中に情報量が盛り込まれて形になっております。

【三友座長】　　どうもありがとうございました。

なかなか役所の報告書にはあらわれにくい、ユーザー目線ということで、我々が失いがちなところから描いていただいてほんとうに助かります。具体的にイメージできることは具体化できるということだと思いますので、そういう意味で非常に心強い思いがいたします。

それでは、これからは意見交換の時間とさせていただきたいと思います。ただいまご説明いただきました報告書（案）、それから未来のイメージにつきまして、あるいは、それ以外のことでも結構ですので、ご自由にご意見、コメント等、あるいはご質問でも結構ですので、ご発言いただければと思います。３０分ほど時間がございますので、ご自由にお手を挙げていただいて、ご発言をいただければと思います。

いかがでしょうか。どうぞ、柴崎構成員。

【柴崎構成員】　　すみません。今、ご説明いただいた絵は、非常にわくわくする、楽しいものだと思いました。ありがとうございました。

それで、よりよくこれを活用する意味で、先ほど一般の方がどういうふうに捉えるかというお話があって、ものからコトへというような文脈がある中で、やはり従来のものづくりに思われてしまったらつまらないと思うのですね。初めのころの会合でいろいろな議論があったと思うのですけれども、単なるＭＰ３プレーヤーとしてのものではなく、ｉＰｏｄとかｉＴｕｎｅｓを組み合わせてシームレスな音楽体験みたいな、エクスペリエンス系のことを言っていたと思うのですけれども、そういうサブタイトルが、それぞれのＩＣＴ店づくりなどについてはどういうことだというようなことを表現されると、もっといい内容になると思いました。

皆さんがいろいろ議論された内容の例は、もっといっぱいあるのだと思うのですけれども、我々の会社の中で議論しているのは、こういう表現をうまくしていきたいと思ったので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

それから、報告書の中で、３Ｄプリンターの議論がトレンドとして書かれていると思うのですが、あの後、田中浩也先生が取り組んでいるファブラボの鎌倉とか、ああいったと

ころをちょっと見学させていただいたり、渋谷のファブカフェというところで自分の体を全身スキャンしてそういうものをつくってみるのを体験してみたり、そういったところで実際に取り組んでいる方のご意見をお聞きしたのですが、どうしても３Ｄプリンターというものに目が行きがちなのですが、ああいった場でいろいろな人が集まって議論して新しいことを考えるという、場づくりということが機能として非常に重要なのではないかというふうに感じております。

オバマ大統領が７０万人単位に３Ｄプリンターを置いた工房を１箇所つくると言われているのですけれども、そのプリンターの活用もあるのですが、目に見えないサービスだとか、そういったところもオープンデータなどを使って議論するような場づくりについて、日本が先陣を切っていけたらおもしろいのではないかと思いました。

ちょっと参考までに意見を述べました。以上です。

【三友座長】　　ありがとうございます。

イラストについてはいかがですか。

【岩浪構成員】　　そうですね、確かにタイトルのイメージというのは、林構成員も言いましたけれども、どのユーザー体験かといったことを説明するのは、よりわかりやすくという意味ではおっしゃるとおりだと思います。そのあたりは参考にして、最後の仕上げに取り込みたいと思いますので、よろしくお願いします。

【三友座長】　　ありがとうございます。

ほかにいかがでしょう。どうぞ、吉崎構成員。

【吉崎構成員】　　私も同じように、今の漫画をお話しいただいて改めて気づいたのは、シーンがどう変わるかだとか、誰が使うかということです。ユーザー中心でと、岩浪構成員がおっしゃったとおりで、結局、データが集まることについてずっと我々は議論してきました。いろいろなデータはビッグデータを中心に集まってくるのですけれども、そのデータを活用しないと意味がありません。このコトづくりで議論してきた内容はアクションプランの一つだと思います。具体的にどうするか、広くアイデアを募る、ユーザーの視点でもう一度考えるというときに、こういった具体的な絵があると非常にわかりやすくて、また、いろいろな発想がわくと思います。

そういう意味で、サブタイトルにぜひとも「活用」という言葉を入れていただきたいと思っています。「データの開放・共有」なんですけれども、データをまず活用しないといけないので、「活用データ」という言葉がいいのか、「開放・共有・活用」という言葉がいい

のかわかりませんけれども、要するに無駄なデータもいっぱいあるわけで、その中でどうやって選ぶかということが中心かなと改めて思いました。サブタイトルのアイデアです。

それから、事務局を中心に、皆様のご意見等を大変うまくまとめていただいたと思うのですけれども、最初のＩＴ国家創造宣言のお話の中に、コトづくりの意見をかなり入れていただいたという話があったのですけれども、このＩＴ国家創造宣言のロードマップと、今後、我々のコトづくりの五本の矢が、どういう形でマッピングされていくのか、もし、わかっている内容がございましたら教えていただきたいと思います。

【三友座長】　それでは、最後の内容につきましては、事務局からご説明いただいたほうがいいと思いますので、よろしいですか。

【中村融合戦略企画官】　ただいま吉崎構成員からございましたが、この新しいＩＴ戦略に工程表というものもついてございまして、何年までにどういったアクションをしていくかというところも、あわせて閣議決定をされたという状況でございます。

今回のこの報告書の中にございます、最終的な５本の柱と完全に１対１対応するものでもございませんが、こういった５本柱につきまして、政府戦略でございます工程表と齟齬が生じないような形で、当然、進めていく必要があろうかと思ってございます。特に、あまり長期にわたってやるというよりも、スピード感を持ってというふうなご意見も頂戴したところでございますので、やはり２０１５年ぐらいをターゲットといたしまして、これらの５本の柱、５本の政策については、きちんと政府全体の動きと連動させながら、進めていく必要があろうかと考えているところでございます。

【三友座長】　ありがとうございます。

なるべくスピード感を持ってというのは、この議論の中にあったとおりでございますけれども、ただ、イノベーションというのは意外と時間がかかったりすることもありますので、すぐに成果を求めることはできないかもしれません。その辺は、アクションは早く、しかし効果は少し長めに見て、社会が変革するのを待たなければいけないというところもあると思いますので、少なくともＩＴ国家創造宣言との工程合わせということは非常に重要だと思いますけれども、その効果をどこまでで把握するかというところについては、少し長い目を持って見たほうがいいかもしれません。

それから、副題に「活用」というお話でした。実は私も、事前にこの報告書（案）を拝見したときに、やはり活用した後にこういうことが起こるということは申し上げたのですけれども、利活用という言葉を含めて、結構言い古されているところもありまして、どう

したものか、ちょっと悩ましいと、正直言って私もそこのところはペンディングにしました。皆さんが「活用」という言葉をぜひ入れるべきであるということであれば、どこに入れるかという問題はあるのですけれども、例えば「開放・共有」の後に「活用」という言葉を入れるとか、どこかで活用した結果において、次の新しい変化が起こるのだというような感じにしていくのかなと思います。具体的にどういう形にするかというのは、事務局とまた相談させていただければと思いますので、よろしいでしょうか。

【吉崎構成員】　　心はそういうことだということで理解してよろしいですか。

【三友座長】　　はい。

【吉崎構成員】　　長くなるので、そういった小さな話です。

【三友座長】　　そうなのです。ちょっとそういうこともありまして、活用は当然この中に含まれて、非常に重要なことであるというふうに考えております。

【吉崎構成員】　　ありがとうございます。

【三友座長】　　はい、どうぞ。

【神竹構成員】　　報告書（案）は、非常にすばらしいというか、ここの検討会議で議論した内容がほんとうに整理されて、まとまっていると思います。

１点、気にかかるのは、先ほども出ておりますスケジュールに関して、いつまでに何をするというところの記載がややないというふうに思っておりますので、座長のおっしゃるように効果測定は少し長い目で見ないといけないと思うのですけれども、アクションに関して、先ほど中村企画官からは２０１５年という言葉が出ていましたけれども、そういうものを何かしらやはり入れたほうがいいのではないかというふうに思いました。

以上です。

【三友座長】　　ありがとうございます。

これは、表現として入れられると思います。ぜひどこかにアクションのスケジュール感を、なるべく具体的な形で補足していただければと思いますので、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょう。はい、どうぞ。

【木谷構成員】　　データの利活用が重要だというのはもう間違いない話ですので、どこかに入れていただけるということでよろしいのではないかと思いますけれども、先ほどのスケジュール感の話ですけれども、イノベーションに時間がかかるということですけれども、データはいろいろなところにもうありますので、今でもできることはたくさんあると

いうふうに思います。

この検討会議の中でもたくさんの議論がありましたけれども、例えばモバイルの空間の統計情報というのは、もちろんいろいろなところで使われ始めてはいますけれども、まだまだ活用はたくさんできるのではないかと思いますし、そういったようなものをいろいろな人のアイデアでやっていくということは、既にプライバシーの問題などはある程度クリアされていますので、場を設定していけば、もっともっと早くできるところはあるのではないかと思います。ある程度先のスケジュールとしては、やはり利活用の環境を整えていく必要がありますので、そういった長めの設定は、環境設定等をやっていくということでよろしいのではないかと思います。

報告書にも入っていますが、コンテストの話とか、そういったものは積極的にやっていくべきだというように思いますので、もう既に書いていただいていますけれども、そういった方向で、ある程度時間的な感覚も、すぐできることと長いことを分けて考えていく、並行して考えていくことが重要ではないかと思います。

【三友座長】　ありがとうございます。

アクションについては、特にこれから具体的なアクションプランを立てていくことになろうかと思いますので、その中で、特に時間軸をきちんと決めた形でやるということだと思います。それから、できることはあるということですが、それもおっしゃるとおりでございますので、特に公共データについては確保する環境というのはあると考えておりますので、できるところからやっていくということだと思います。コンテストも含めて、具体的なアクションをなるべく早目につくっていくというところだと思います。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。まだご発言いただいていない三膳構成員、いかがですか。

【三膳構成員】　資料７－３の絵については、すばらしいと思いつつ、報告書での位置づけはどうなるのか気になりますが、おもしろいと思っています。

先ほど柴崎構成員が言われたみたいに、やはりコトづくりというビューとか、イノベーションというビューがちょっと入ったらいいというのは、的確だったと思いますので、それはタイトルなり何なりというのと、個人的には社会とか、行政とか、そういうところが担う役割みたいなものが入るといいと思っています。こういうものをやっても、民間が進めるので支援しますみたいな役割がどうしても報告書には出てくるのですけれども、ちょっと前にも言ったみたいに、政府でも活用してやるべきことというのは結構あるのではな

いかと思っていて、そのあたりの部分を表す絵ができたりすると、今回は難しいかもしれないですけれども、おもしろいと思いました。

報告書に関しては、いろいろと発散させてしまった議論もありながら、こんなにきれいにまとめていただけて本当によかったと思います。５つのアプローチとか、３つのイノベーションという部分の位置づけなどが結構きれいにできたのはできたと思うのですが、逆にきれい過ぎて、これをどうやって実際に位置づけていくのかという部分が、ほんとうはもう一歩踏み込めたらおもしろかったかと思います。けれども、今回はそういうところでまとめられたというのはよかったと思います。

すみません、あまりまとまっていませんが、以上です。

【三友座長】　　ありがとうございます。

特に、行政が担う役割というのは非常に重要な視点だと思います。この絵の中に描けるかどうかというのは別として、実際に行政がどういう立ち位置で具体的なアクションを起こしていくのかというところがあると思うのですけれども、そのあたりのところ、少しコメントをいただけると助かるのですが、いかがでしょうか。

【中村融合戦略企画官】　　資料７－３の絵の中に、少し行政的なテイストのアイデアを入れられるかということでございましょうか。

【三友座長】　　それでもいいのですけれども、この報告書を含めて具体的な立ち位置みたいなもの、これは総務省の報告書ではあるのですけれども、具体的なアクションといったときにどういう形でここにあらわれ得るのかということです。

【中村融合戦略企画官】　　そういった意味では、特に５本柱ということでお示しをさせていただきました中でも、データのオープン化、あるいはデータベースの構築といったところを冒頭にお示しさせていただいてございますが、政府、独立行政法人、あるいは地方公共団体といったところが保有する公共データは基本的に開放し、相互利用しやすいような環境をきちんと整えるというようなことを、３１ページ目に記載をさせていただいてございます。あわせて、民間が保有するデータについてはどういったアプローチが必要かというような観点で、３２ページ目の第２パラグラフに入れさせていただいているという状況でございます。

そのほか、当然、３本目の柱、あるいは４本目の柱は、民間企業、あるいは大学といったようなところのアイデア、英知も生かしつつというところでございますが、やはり全体といたしましては、まず政府としてどういった具体的な方策をとっていくべきかという観

点で、最後に、取り組みをまとめさせていただいているというような状況でございまして、具体的に期待される役割といったようなあたりも、工夫できる記述があるかどうか、また座長とご相談させていただければというふうに思ってございます。

【三友座長】　　ありがとうございます。

この絵の中でということだとなかなか難しいのかもしれませんけれども、例えばデータを提供するときに、セキュリティー、安心とか、そういったものを政府が保障するようなイメージとか、何かそういうものもあるのかとは思いますけれども、それを具体的にできるかどうかは別として、こういう絵の中で政府が果たし得る役割というのは、そういうところにもあるというのは一つの私の意見でございます。どうもありがとうございます。

では、どうぞ。

【岡村構成員】　　報告書自体は、ここでの議論を非常に的確に捉えた、わかりやすいものになっているかと思いますし、ユーザー目線というのも非常によい表現の仕方と思っております。

もう何名かの方からコメントがありましたけれども、例えば３５ページに五本の矢ということで、具体的な方向というかアクションが示されていますので、やはりこの報告書を読む立場からすると、この後にやはり時間軸を期待するところで、ざっくりとした、せめてロードマップ的なものがこの後にあると、読み手が、短い時間軸でこういうことを進めるのであれば我々も急いでこういう活動をやろうとか、あるいはロングタームの話だったら、じっくり構えて準備をしようというように、具体的ないろいろなアクションにつながっていくと思いますので、ぜひこの五本の矢の時間軸を、国がどのように期待をして、このあたりにはこんな世界ができるということを、マイルストーンのようなものでお示しいただけると、実際この報告書を読む立場としては、非常に活用の度合いが上がるのではないかと思います。

【三友座長】　　ありがとうございます。

どのような形で報告書の中で反映できるかは、またちょっと事務局とも相談しながら、前向きに考えていきたいと思います。どうもありがとうございます。

藤山構成員、いかがでしょうか。

【藤山構成員】　　前回も申し上げましたけれども、ＩＣＴコトづくりの推進に向けた５つの項目は非常に的確だと思っております。

３つ目の新規性、創造性あるアイデアの活用とその中身ですけれども、ヘッディングで

この中身が想像できるかどうか、インキュベーションという言葉などはヘッディングに出すような工夫ができないかと若干感じていますが、中身についてはこれでよろしいかと思います。

あと、今日、「世界最先端ＩＴ国家創造宣言」を初めて見せていただきました。よくまとまっていてすばらしいと思うのですけれども、この上に国家戦略があって、成長戦略の中の最重要項目というところでＩＴ戦略が始まっている点は非常にいいと思うのですが、要は、これからの戦略というのは、産業政策だとか、これからの特区の政策だとか、そういうものと組み合わせて、できるところからどんどんやっていくという具体的なアクションが重要だと思います。

急にそこが全部できるとは思いませんが、せっかく５．６.に関係省庁と連携した一体的な取組の推進というところがあるので、このあたりに、例えば他の基幹戦略みたいなものとの融合というのはこれからも大事だという話や、他省庁との連携だけではなくて、大きな目で見て、できるところからどんどん進めることは大事だということ。これはスケジュールという意味で出ているのかもしれないのですけれども、ＰＤＣＡは書いてないのはまだまだ答申ということだからかもしれません。あるいは、広報、どこまで何ができたのだよということを、今後、こういう格好でチェックして発表していくつもりだというようなこと。５．６.のところに少しでもそれらをにおわせることが書いてあれば、非常に前向きでいいのかなと感じます。

以上です。

【三友座長】　　ありがとうございます。

藤山構成員のおっしゃっていることは非常に重要なことでございまして、どうしてもこの会議だけでまとまってしまうところはあるのですけれども、当然ながら、より国の中心の戦略との関係を、連携して進めていくというところは非常に重要だと思います。

この先、具体的なアクションを考えていかなければいけないので、その中で、広報というお言葉でしたけれども、成果の確認といったものがどういう形でできるのか、何となく垂れ流しで終わってしまうのではなくて、やはりそれをきちんとフォローアップするようなことも必要であろうというご意見だと思います。この後の具体的なアクションを構築していくときに、そういった視点をぜひ入れていただければというふうに思います。

はい、どうぞ。

【林構成員】　　まとめの資料での書き方は全然イメージできないのですけれども、以前

から気になっていることが一つございまして、例えばＹｏｕＴｕｂｅにおける著作権処理の話などで、こういう新しいユーザーが集まって成立するようなビジネスの場合は新しい秩序が必要な領域だと思っています。確かに、従来型の著作権処理の仕方はこうだみたいな議論はあると思いますが、ユーザーが集まって利活用が進む間に、ともすると日本の場合などは、そういうビジネスの芽をつんでしまうようなコンサバティブな自主規制の要請や裁判の結論が出てしまったりします。海外の場合は、これが利益になると言う場合、結構普及期に走っていく間は、国家が積極的な意味であえて関与しなかったり、支援をしているようなイメージがあります。結果、その事業が世界のデファクトになって、国の利益が最大化するようなイメージがあります。全く新しい、こういうアクティビティーの場合は、従来価値だけで判断するより、海外同様、国際競争という意味でも、少し黙認して応援して走らせるようなことが行われ、国家レベルでも支援できないかというようなことをいつも思っています。それを書くかどうかという問題はあると思いますが、どうも日本の場合、そういう取組みが欠けているのかなと思います。このままでは産業の創業利益とでも言いましょうか、国際的視野でもフロンティアの創業利益と言えるようなものが、どうも日本に来ない、日本に落ちない、そういう感じがしております。

【三友座長】　　ありがとうございます。

おっしゃる点はぜひ留意したいと思います。なかなか報告書には書きにくいかもしれませんけれども、これから具体的なアクションを考えていくときには、ぜひ考慮していただきたいというふうに思います。

最後ですけれども、森川構成員、いかがですか。

【森川構成員】　　２つほど感想めいたことになりますけれども、お話をさせていただければと思います。

まず１点目は、このＩＣＴコトづくり検討会議の趣旨自体が今の流れに合っていると思いました。僕は、いつも「ストーリーとしての」というような言い方をしていますけれども、『ストーリーとしての競争戦略』という楠木先生の本がありましたが、あれと同じような形で、やはりＩＣＴもストーリーをつくっていかなければいけないということで、Ｈｏｗではなくて Ｗｈａｔだというような今の時代を的確に反映した会議であったなというふうに思った次第です。

２つ目は、最後にまとめがございましたけれども、その裏として、やはり我々ＩＣＴ屋が意識していかなければいけないことがあるだろうということを、再確認しなければいけ

ないというふうに思いました。それは、やはり相手側、いろいろな分野との融合が必要になりますので、そうすると、そちら側にやはり我々ＩＣＴ屋自身も目を向けていくことが重要だということです。そこで、相手と我々とで、あわせ技で何かしら新しいことをつくっていかなければいけないと思っておりますので、そのような方向にやはりドライブを意識的にしていかなければいけないのではないかと考えています。その際は、制度とか社会デザインとか、ＩＣＴ屋自身もやはりそちらをしっかりと理解していかなければいけないというふうに思っております。

産業として、将来、大きくなりそうなものとして医療があるわけですけれども、例えば医療について調べるといろいろな問題があります。ＩＣＴ屋が一体全体、何ができるのかというのはしっかり考えていかなければいけないと思っていまして、バリアがどこにあって、何がＩＣＴを活用する、あるいはデータを利活用するバリアになっているのかを、やはり我々自身もしっかりと理解していかなければいけないのではないかというふうに思っております。例えば、経済の人たちは医療経済とか、農業経済とかいろいろな分野に進出していっているわけですので、同じようにＩＣＴの我々もいろいろな分野に進出をしていくようなことを、ちょっと意識的に推進していかなければいけないのではないかというふうに思っております。

すなわち、我々が待っているのではなくて、やはりほかの分野に出ていく。その中で、いろいろと参考となる事例はフィードバックしていく。例えば、医療系のデータの活用でおもしろいと思ったのは、アメリカの保険会社等がやっているコンテストがありまして、患者さんの入院日数を予測するというのがありました。おそらく１，５００以上の組織ぐらいがそれに参画して、患者のデータを解析しています。そこで得られたノウハウをアメリカの保険会社が利用して保険料にも反映されるという、データの利活用という意味では非常におもしろいプログラムだと思いました。もちろん、社会保障制度が違いますから日本で同じことを行うモチベーションは弱くはなりますが、外の分野でいろいろな動きがありますので、ＩＣＴ屋はそういったものもしっかり、若い人も含め背中を押してあげて、いろいろな分野に行ってこいという仕組みをつくっていくことも、あわせて考えていきたいというふうに思った次第でございます。

以上です。

【三友座長】　どうもありがとうございました。取りまとめていただいたようでありまして、助かっております。

議論は尽きませんが、このあたりで意見交換を終了させていただきたいと思います。皆様、ほんとうに熱心な議論、ありがとうございました。いただいたご意見につきましては、報告書に反映させていただきたいというふうに思いますけれども、最終的な報告書及びその報道発表につきましては、大変恐縮ではありますけれども、座長の私に一任していただくということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【三友座長】　ありがとうございます。

もう少し時間があれば、皆様から最後に一言ずつお願いしたかったところですけれども、ちょっと時間が押しているようでございます。

最後に、この会をサポートしていただきました谷川座長代理から一言ご挨拶をいただきまして、その後に私から最後のご挨拶をさせていただきたいと思います。

【谷川座長代理】　今回、事務局の皆様には、大変ご苦労いただきまして、ありがとうございます。非常にまとまった報告書になったかと思います。

私自身、今回、ＩＣＴコトづくりというテーマでスタートを切ったときに、どうなることかと思いましたけれども、何とか着地できたと思いますし、いろいろ前後関係をお伺いしていますと、ＩＣＴコトづくりという非常にユニークな切り方をしたこと自体が、今回、総務省のこういった活動の中でも非常にエポックメーキングだったということで、大変挑戦的なテーマだったかなというふうに改めて思っています。

私、若干、反省も含めて、この後、多少、何かできたらばと思いましたのは、委員の皆さんから「スピード感」という議論が出てきている中の背景として、これはちょっと言葉に注意しなければいけませんが、この報告書の全体を通している緊張感みたいなものがまだあまりうまく伝わってないなと思っています。緊張感というのはどういうことかというと、２０年、失われた期間は長かったというメッセージは入っていますが、残されている期間はあとどれぐらいあるかということが冒頭に出てくると、多分、全体のスピード感というのはがらっと変わってくるというふうに改めて思いました。残されている期間がどれぐらいあるというのは、それぞれ見方があるかと思いますけれども、非常に乱暴な私見でいいますと、あと１５年残っていないのではないかと考えています。そういう意味でいうと、５年刻みで走っていったとしても、次の５年というのはかなり大急ぎでいろいろなことをやらないといけないタイミングにあるような気が個人的にはしています。

特に今回、ＩＣＴコトづくりということで議論をご一緒していて改めて思いましたのは、

技術革新の大きなものが、今、とまっている時代に入っていて、あと１０年ぐらいはびっくりするものは出てこないと思います。そういう意味では、「新産業」という言葉が比較的、今、色あせているのはそのせいかなと思います。逆に、「新サービス」という言葉に期待が込められているのも、多数のサービス業というか、とっつきやすいスモールビジネスを大量に立ち上げておかないと、次の技術革新の波が来たときに、日本がうまく産業転換できないということの一つのあらわれというふうに、今回一緒に議論していて感じております。そういう意味で、藤山構成員が繰り返しインキュベーションの重要性ということを指摘されていますが、そういう時代感というものがあると、最後のページの取りまとめのイメージがかなり緊張感を持って伝わってくるのかなと、ちょっと感じた次第でございます。

この辺、十分この会議の中で議論し切れていなかったところでもございますので、一私見ということでお話しさせていただきました。

以上でございます。

【三友座長】　どうもありがとうございました。

続きまして、私より一言ご挨拶申し上げます。

まず、この会議にご参加いただきまして、積極的にご議論をいただきました構成員の皆様に、ほんとうに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。私の拙い進行で、いろいろとご迷惑をかけたところもあろうかと思いますけれども、おかげさまで大変立派な報告書にまとめることができました。

これから非常に重要なことは、これをやはり具体化していくことだと思います。絵は描いていただきましたけれども、絵だけではだめで、これは社会で実現しなければいけないので、ぜひそれまで皆様からもいろいろとご意見、それからご指導いただければというふうに思っております。

あと、このＩＣＴコトづくり、「コトづくり」という言葉は非常に新しい言葉ですけれども、実は先日、事務局に、これは英語で何というんだ、何と表現するんだという質問をいたしました。というのは、私、来週、フランスへ行きまして、この話を少ししてきます。辞書を見ても残念ながら載っていませんし、ウェブで調べてもコトづくりの英語というのは載ってないのですけれども、私は半分、まだ考えてないという答えが返ってくるのではないかと思っていましたが、すぐに返事が返ってきまして、ＩＣＴコトづくりは「Ｖａｌｕｅ　Ｃｒｅａｔｉｏｎ」というとのことでした。要するに、価値を創造する、そこのところにこのＩＣＴコトづくり検討会議の着地点があるということです。まさにそういう形

での報告書になっているのではないかというふうに思っています。

これからＩＣＴ成長戦略会議にこの内容が反映されていくと思うのですけれども、実はＩＣＴ成長戦略会議はいろいろな部会、８つの部会がございまして、それぞれテーマを持っているのですけれども、私、実は１つだけ欠けている部分があると常々感じております。それは、高齢化社会については非常に注目をしているのですが、実は次世代のことについての記述があまりありません。

これは、少子ということだけにフォーカスしたのではだめだと思っています。もちろん、少子ということも含めて、やはり次の若い世代がこの日本をよりよくするような、そういう活力をつくっていかなければいけないのですけれども、どうしても超高齢化とか、シルバーとか、そういう方向に目が向いていまして、シルバーはなかなか錬金術をもってもプラチナにはならないと思うのですけれども、どうしてもそこのところに目が行ってしまいます。

過去に、例えばフランスとかスウェーデンとか、英国もそうですが、少子化が発生したときにいろいろな対策を講じて、それを克服しています。でも、それは１９８０年代でした。今はＩＣＴがあります。少子化の問題を含めて、日本の若い人たちを元気づけるような環境ができたら、日本のＩＣＴというのはもっともっと世界に評価されるのではないかというふうに思っております。やはり次の世代が活躍できる場をつくるような枠組みもこのコトづくりの中からぜひ生み出していきたいなというふうに思っております。

最後にちょっと私の所感を述べさせていただきました。どうもありがとうございました。

それでは、最後に、柴山総務副大臣から、本会議を終えるに当たりまして、一言締めのご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【柴山総務副大臣】　　ありがとうございます。３月から、計７回にわたりまして、構成員の皆様には、それぞれの見地からほんとうに熱心にご議論を賜りましたこと、また、こうして立派な報告書を取りまとめていただきましたことに、心から感謝申し上げたいと思います。

今、三友座長から、コトづくりの定義のお話がありましたけれども、私は総務副大臣に就任してから、この「コトづくり」という言葉を聞いた瞬間に、これはいけるというふうに思いました。それはなぜかというと、やはりものづくりということで日本はこれまで勝負してきたというイメージがありました。高い技術と、そして器用な手先、勤勉で、これまで積み重なってきたものを伝承する。そういったものについては、日本人は非常に長け

てきた側面があります。ただ、その一方で、それこそ新しい価値というものを、それぞれこれまで培ってきたものを組み合わせてビジネスモデルを創出するというところが、成熟したこれからのグローバル社会には必ず求められてくると思います。だから、この新しい価値を創造する「Ｖａｌｕｅ　Ｃｒｅａｔｉｏｎ」としてのコトづくりというのが、特にこの先端のＩＣＴを使って実現するのにふさわしいテーマであろうというように思っております。

なかなか社会的に定義が定まっていない概念を扱うということで、いろいろとご苦労された部分もあろうかと思うのですけれども、そういう側面から議論をリードしてくださった三友座長、谷川座長代理には、改めて心から敬意を表したいと思っております。

課題として、次世代のお話を頂戴しました。確かに、そういう側面はあります。私も、そう感じています。高齢者については、スマートプラチナ社会の実現ということで、さまざまな実証を含めた提言をしていただきましたけれども、次世代の育成ということになると、既に走っている文部科学省とのプロジェクトであるフューチャースクールなどの取り組みもありますので、若干手薄になってしまった部分があろうかと思います。

フューチャースクールについては、私も先日、横浜に視察をしてまいりまして、タブレットの支給、それから、それを活用した学校での取り組みというものを、見てまいりましたけれども、この分野にもまだまだ取り組みを拡大する余地があると思っております。

また、今、お話があった少子化対策について、例えば若いお母さんたちの情報共有の場が核家族化してなかなかないといったところにも、まちづくりのコンテクストからも生かしていく部分というのは、当然、あるだろうと思います。

そういったことも含めて、ぜひ皆様には、またご意見、ご指導を賜ればというように思っております。

いずれにいたしましても、今日は手描きの絵も交えて、具体的なイメージもかなり固まってきたと思います。あとはこれを、今、座長代理からもお話があったように、緊張感を持って、しっかりと実現をしていくというプロセスであろうかと思います。その意味からも、いかに今、日本は厳しい状況にあるのかということを、しっかりとイメージを共有して、この危機感を共有して、データの開放や共有、あるいは電子政府の推進、また、こういったさまざまな取り組みを行っていくに当たって、何が壁になって、誰が、それをどのように壊していくのかということを、全力を挙げて、関係者一丸となって取り組んでいく必要があると思います。

そういう意味で、この報告書を取りまとめたことが、まさしく今、お話があったように、終わりではなくて、ここからがスタートであろうと思いますので、私も総務副大臣としてしっかりリーダーシップをとってまいりますので、ぜひとも皆様には引き続きご指導、ご支援、そして叱咤激励を賜りますように、厳しくいただきますように心からお願いを申し上げまして、私からの最後の感謝の言葉とさせていただきます。皆様、ほんとうにありがとうございました。

【三友座長】　　どうもありがとうございました。

以上をもちまして、ＩＣＴコトづくり検討会議を終了させていただきます。皆様、長い間にわたりまして、どうもありがとうございました。

以上